

MDS 声明 香田さん見殺しの小泉糾弾！ 今こそ自衛隊撤退を

10月31日、イラク・バグダッドでアジア人青年と見られる遺体が発見され、日本政府によれば武装集団に拘束されていた香田証生さんと確認された。テロに屈するなと言いつけ、自衛隊撤退を拒否した小泉に見殺しにされたのだ。自衛隊撤退を拒否しては一切の交渉もありえないことがわかっていて、小泉は見殺しにした。国民の命よりも占領継続が大切なのである。

小泉は、石油利権を狙い、復興事業に関与し、自衛隊を本当に人殺しのできる軍隊にするために占領継続を望んでいる。日本グローバル資本の利益のために青年の命を見捨てたのである。

現在、大量破壊兵器が存在しないことをブッシュ政権も認め、イラク戦争の正当性はまったくないことが誰の目にも明らかとなっている。香田さん拉致事件がなくとも不当な占領を直ちに停止し、自衛隊は撤退すべきときである。

それにもかかわらず、小泉は自衛隊駐留を延長し、しかも増員さえしようとしている。ブッシュ、ブレアと組んでイラクの1月暫定議会選挙を成立させ、アラウィかいらい政権を正当化するために自衛隊駐留継続が必要と考えているからだ。事実、10月13・14日に行われたイラク「復興支援国」会議で、日本政府は4千万ドルを選挙費用として支出することを表明している。

今回、一人の日本人青年を見捨てた小泉は、新潟中越地震が起きたときも映画鑑賞を優先し、対策本部にも顔も出さなかった。人命無視で徹底している。でたらめな理由でイラク人を10万人以上殺したブッシュの盟友としてまさにふさわしい資質である。

ブッシュ、ブレア、小泉はグローバル資本主義の利益のために国民の命を平然と犠牲にしている。かれらを全世界から追放することが世界の平和運動、そして人類の責務である。

同時に、香田さんを殺害したテロ行為は、イラク解放、占領軍撤退闘争に敵対した行動であり、われわれは絶対に認めることはできない。抵抗闘争は占領軍に向けられるものであって、民間人に向けられるべきではない。このような武装グループによるテロは、イラクにおけるアメリカ軍の蛮行＝国家テロを相対化し、軍事的報復に口実を与えるものである。まさに利敵行為といわねばならない。

われわれは、非武装で、占領軍撤退と自由・平等なイラク建設をめざし闘っている市民レジスタンスと連帯を強め、全世界の平和運動とともに、全占領軍の撤退をかちとらねばならない。自衛隊駐留延長を阻止しなければならない。

自衛隊・全占領軍を撤退させることでこれ以上の犠牲者を出させない決意を表明することが、彼へのわれわれの弔辞である。